

正法寺駐車場造成による試掘調査について

資料公開にあたり文化財保護委員様と新居浜市役所のご厚意により試掘調査資料を公開しています。これにより古代の新居郡(新居浜、西条)の歴史が明らかになることを願っております。また転載等される場合は当山に連絡をお願い致します。市役所、文化財保護委員様への質問等のご遠慮願います。

合掌 正法寺

1 調査年月日 平成30年7月30日、同8月1日、同8月17日、同10月30日

2 調査場所 新居浜市大生院字銀杏之木1346番1

3 依頼者 新居浜市大生院1602番地 正法寺代表役員 大西覚朗

4 調査担当者 新居浜市文化財保護委員
新居浜市教育委員会事務局文化振興課

5 調査の目標及び目標

周知の埋蔵文化財包蔵地である「正法寺遺跡」の区域内における土木工事に先立ち、依頼者より、埋蔵文化財確認の申請があったので申請地において試掘調査を実施した。

試掘調査は、遺物包含層及び遺構・遺物の有無を確認するため、重機および人力による試掘トレンチを設定し、土層の断面観察・測量および写真撮影などの記録を行った。試掘調査後は、重機による埋め戻しを行い、原状回復に努めた。なお土色については2004年版新版標準土色帳（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）によった。

6 試掘調査結果の概要 ※1

正法寺遺跡は、大生院台地の西端に位置し東側には渦井川が流れ、遺跡の広がる東側は渦井川によりできた河岸段丘がみられる。本申請地は渦井川によってできた河岸段丘上部の丘陵地にあたり、南側から迫る山の裾部分に位置する。申請地は南から北へ緩やかな傾斜が見られ高さの異なる2面の畑が広がる。（図1、図2）

本申請地付近は、過去の農道工事に伴い泥塔や奈良、平安時代の瓦が出土している。試掘トレンチは、申請地が高さが異なる2面に分かれていることより、上部の地に東西に1箇所（T-1）、南北に1箇所（T-2）のトレンチを、下段の地には東西に2箇所（T-3）（T-4）、南北に1箇所（T-5）のトレンチを設定し、それぞれの壁面の土層堆積状況を観察し記録した。（図3）

[T - 1]

1 層は耕作土、2 層は黒褐色土、3 層は灰オリーブ色土、4 層は黄褐色土の粘土層である。5 層は褐色の粘土層である。遺物が 70 点余り、5 層から検出された。遺物は、泥塔、瓦、土師器、鉄製品と緑釉陶器片である。泥塔は小型と大型のものがあり、形状やサイズが異なるもの数種類が出土した。瓦は 10 点ほど出土し、15 cm 四方のものが最大で他は小片である。土師器は 4 点出土し 1 点は燈明皿、もう 1 点は側面から底部の形状より碗と思われる。残り 2 点は器の底部片である。鉄製品は 2 点出土し、棒状のものと 3 cm 四方の鉄製品の一部である。緑釉が 1 点出土し、外と内に緑釉が施された平底の碗と思われる。遺物は 40 cm 大のものから 5 cm 四方の大量の石や礫とともに出土した。試掘した範囲の中で、南北に 2 個の大型の石が約 2 m の間隔で確認できた。礎石の可能性はなくはないが小範囲ということと掘り下げを行わなかったことより、遺構の一部かどうかについては確認できなかった。(図 4 - 1)

[T - 2]

1 層は耕作土、2 層は黒褐色土、3 層は灰オリーブ色土、4 層は黄褐色の粘土層である。遺物が 80 点余り、4 層から検出された。遺物は、泥塔、瓦と青磁片である。泥塔は小型と大型のものがあり、形状やサイズが異なるもの数種類が出土した。瓦は 12 点ほど出土し、12 cm 四方のものが最大で他は小片である。出土瓦の中に軒丸瓦の小片があるが、文様が磨滅している。その他、5 cm 角の青磁が 1 点出土した。遺物は大量の石や礫とともに出土し規則性や意図的な配置等は見られなかった。また、[T - 1] で見られた大型の石は確認できなかった。(図 4 - 2)

[T - 3]

1 層は耕作土、2 層は褐色の耕作土、3 層はにぶい褐色土、4 層は褐色土、5 層は褐灰色土、6 層は褐色土、7 層はにぶい赤褐色土の粘土層である。遺物が 10 点余り、3 層から 7 層で検出された。遺物は泥塔と瓦片である。泥塔は小型のもの 2 点、大型の相輪部分 1 点である。遺跡に伴うものでなくトレンチ [T - 1] [T - 2] からの流れ込みと思われる。(図 4 - 3)

[T - 4]

1 層は耕作土、2 層は黄褐色の耕作土、3 層は灰褐色土、4 層は明褐色土、5 層は黒褐色土、6 層は褐色土である。遺物が 15 点余り、3 層から 6 層で検出された。遺物は泥塔、土師器、瓦である。泥塔は小型のもの 2 点、土師器は形状より碗と思われる。瓦は 3 分の 1 程度が残る平安時代末期の六葉単弁軒丸瓦、残りは平瓦片である。泥塔、軒丸瓦、土師器は同一地層の 1 m 四方内から出土した。遺物は遺跡に伴うものでなくトレンチ [T - 1] [T - 2] からの流れ込みと思われる。(図 4 - 4)

[T - 5]

1 層は耕作土、2 層は黄褐色の耕作土である。3 層は灰褐色の粘土層、4 層は褐色の粘土層、5 層は極細かい砂混じりの褐灰色の粘土層である。6 層は小さな礫や砂を含む褐色の砂礫層である。遺物が 5 点余り、3 層から 5 層で検出された。遺物は泥塔、瓦である。泥塔は小型のもの 2 点、瓦は平瓦片である。第 5 層は他のトレンチでは見られなかった砂混じりの褐灰色の粘土層である。この層は、試掘地よりも高くなっている南側の斜面が流水によって削られ堆積したものと思われる。よって遺物は遺跡に伴うものでなくトレンチ [T - 1] [T - 2] 方面からの流れ込みと思われる。(図 4 - 5)

7 まとめ

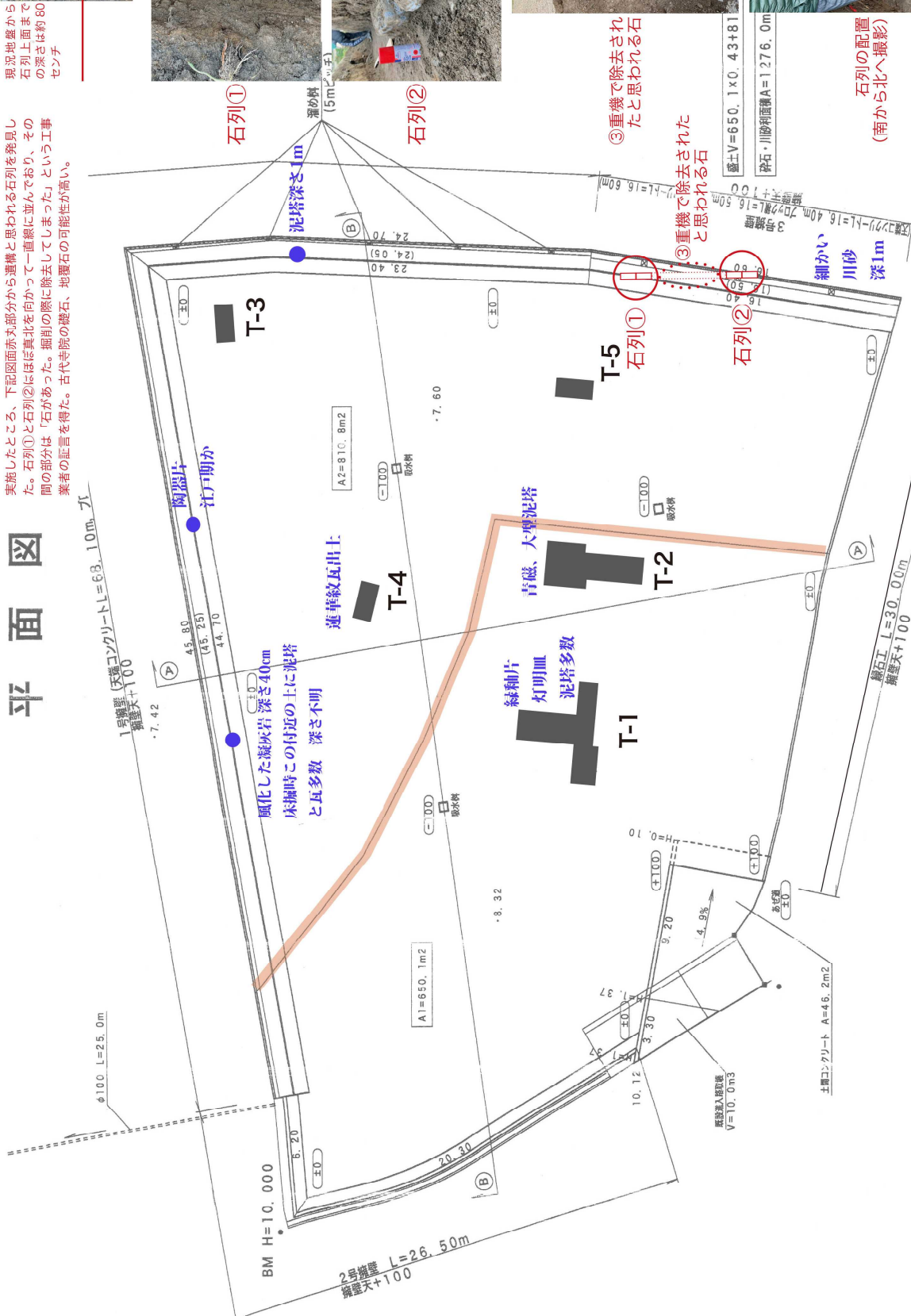
試掘調査の結果、今回の 5 箇所の試掘トレンチすべてから遺物が検出された。特に T - 1、T - 2 からは大量の遺物が検出された。T - 1、T - 2 から遺物が検出された層は、いずれも表土から 30 cm 程にある黄褐色の粘土層であり、遺物の出土状況が同一であることより試掘されていない北東方面に包含層が広がるものと思われる。出土した遺物の時期は、平安後期から鎌倉時代初頃に比定できるものである。また、遺物に火を浴びた痕跡がみられるものが多くある。試掘地は、当遺跡にあった建造物が鎌倉時代に焼失しその後整地した際、斜面であった当地を水平な土地にするため、土坑に礫・石とともに遺物を廃棄し高さ調節したものと思われる。また、T - 1 トレンチの西端や T - 2 トレンチの南端には出土範囲に明確な境目が見られ、区画を決めて廃棄したことが想像できる。T - 3、T - 4、T - 5 の試掘溝から出土した遺物は石や礫に絡まるものでなく単品の出土である。また壁面の層が複雑で多層になっていることより試掘面より 1 m ほど高くなっている南面や 50 cm ほど高くなっている T - 1、T - 2 の地点からの土砂の流入、堆積により地層が形成されたものと思われる。その過程で遺物が流れ込んだものであろう。

※1 『埋蔵文化財試掘調査報告書』山内隆夫 令和元年 より

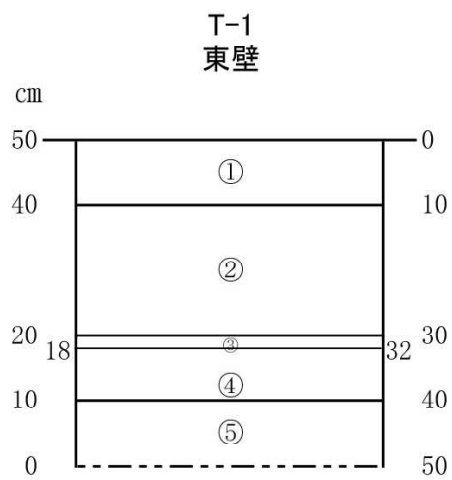
「6 試掘調査結果の概要」以下は上記の資料を引用させて頂きました。

圖面平

平成31年4月2日、3日の両日、擁壁工を実施するため工事立会を実施したところ、下記図面赤丸部分から遺構と思われる石列を発見し、石列①と石列②にはほぼ真北を向かって一直線に並んでおり、その間の部分は「石」があった。掘削の際に除去していった」という工事業者の証言を得た。古代寺院の礎石、地覆石の可能性が高い。



段差部分（線より右側の現況地盤が低くなっている）



出土した泥塔



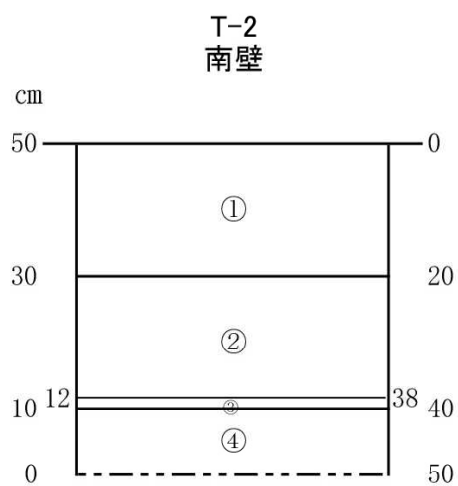
石列



T-1(東壁面)

番号	土質・色調(Munsell)	緊密度	備考
①	褐灰色(7.5YR6/1)土	疎	耕作土
②	黒褐色(10YR3/1)土	中	
③	灰オリーブ色(7.5Y5/2)土	中	
④	黄褐色(2.5Y5/6)土	中	
⑤	黄褐色(10YR5/6)土	中	遺物包含層

図4-1 土層堆積図及び写真 (T-1)



出土した青磁

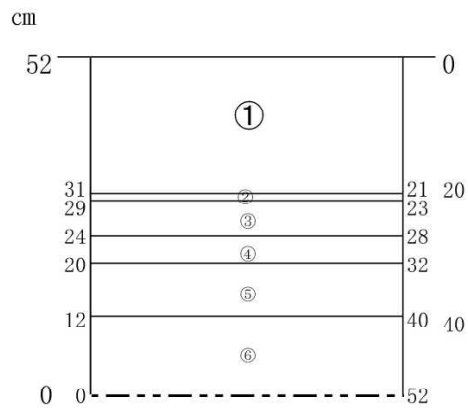


T-2(南壁面)

番号	土質・色調(Munsell)	緊密度	備考
①	褐灰色(7.5YR6/1)土	疎	耕作土
②	黒褐色(10YR3/1)土	中	
③	灰オリーブ色(7.5Y5/2)土	中	
④	黄褐色(10YR5/6)土	中	遺物包含層

図4-2 土層堆積図及び写真 (T-2)

T-4
北壁



出土した軒丸瓦

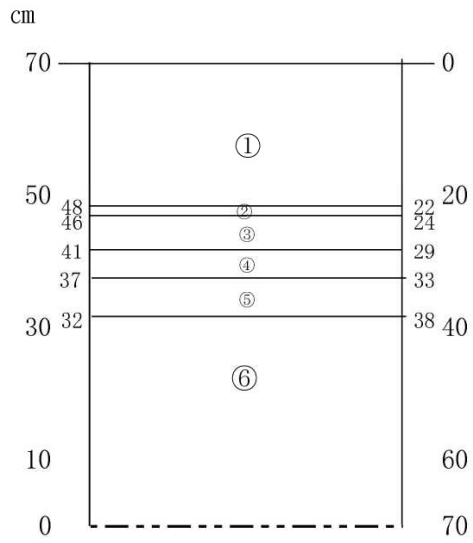


T-4(北壁面)

番号	土質・色調(Munsell)	緊密度	備考
①	褐灰色(7.5YR6/1)土	疎	耕作土
②	黄褐色(10YR5/8)土	中	耕作土
③	灰褐色(7.5YR4/2)土	中	遺物包含層
④	明褐色(7.5YR5/6)土	中	遺物包含層
⑤	黒褐色(7.5YR3/1)土	疎	遺物包含層
⑥	褐色(7.5YR4/3)土	中	遺物包含層

図4-4 土層堆積図及び写真 (T-4)

T-5
東壁



T-5(東壁面)

番号	土質・色調(Munsell)	緊密度	備考
①	褐灰色(7.5YR6/1)土	疎	耕作土
②	黄褐色(10YR5/8)土	中	耕作土
③	灰褐色(7.5YR4/2)土	中	遺物包含層
④	褐色(7.5YR4/6)土	中	遺物包含層
⑤	褐灰色(7.5YR4/1)土	中	遺物包含層
⑥	褐色(7.5YR4/3)土	中	

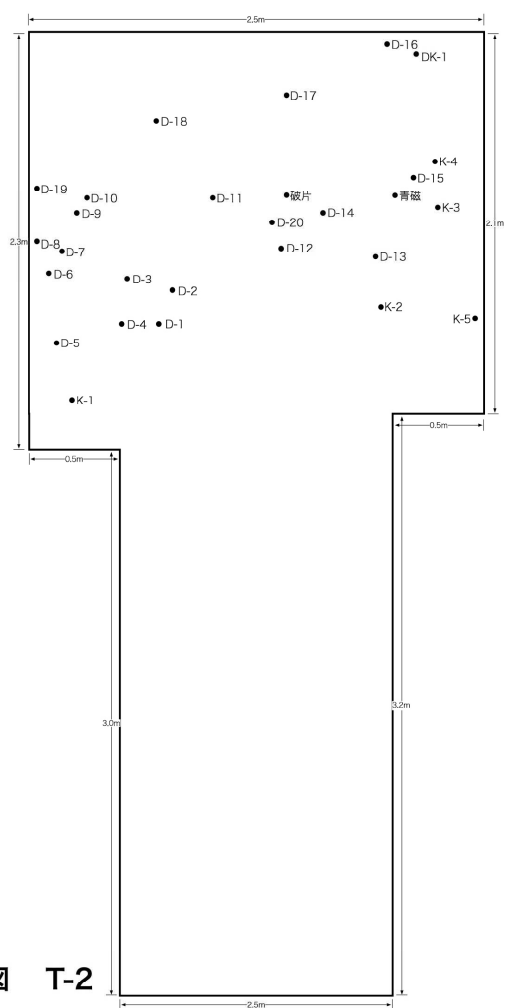
図4-5 土層堆積図及び写真 (T-5)

D= 泥塔
K= 瓦
T= 鉄器
DK= 土器



T-1

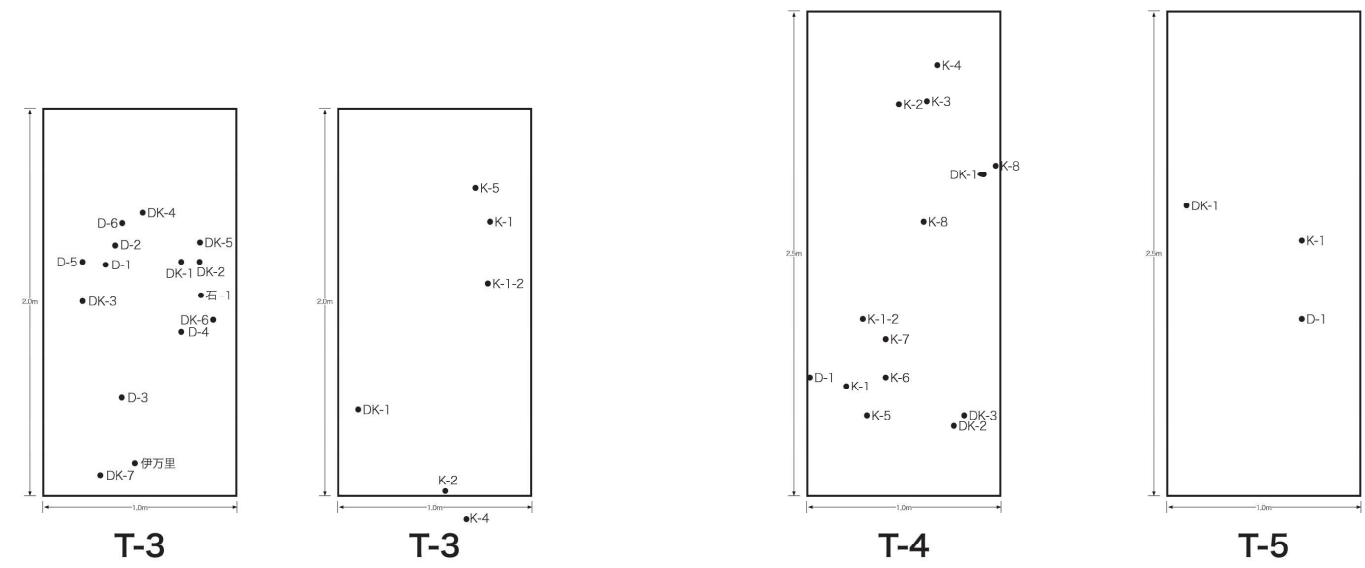
D= 泥塔
K= 瓦
T= 鉄器
DK= 土器



T-2

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査トレンチ平面図

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」
試掘調査トレンチ平面図



D= 泥塔
K= 瓦
T= 鉄器
DK= 土器

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-1）



D-1



D-2



D-3



D-4



D-5



D-6



D-7



D-8

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-1）



D-9



D-10



D-11



D-12



D-13



D-14



D-15



D-16

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-1）



K-1



K-2



K-3



K-4



K-5



T-1



T-2



DK-1

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-1）



不明-1



南から北へ撮影



東から西へ撮影

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-2）



D-1



D-2



D-3



D-4



D-5



D-6



D-7



D-8

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-2）



D-9



D-10



D-11



D-12



D-13



D-14



D-15



D-16

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-2）



D-17



D-18



D-19



D-20



K-1



K-2



K-3



K-4

周知の埋蔵文化財包蔵地「正法寺遺跡」試掘調査出土状況（T-2）



K-5



青磁



DK-1



破片

試掘調査トレンチ平面図

